

教育目標	カリキュラムポリシー	担当	生徒・保護者・教職員評価	評価項目			生徒評価			保護者評価			教職員評価			評価	自己評価	改善策	学校関係者評価委員会での意見等	総合評価
				評価	肯%	評価	評価	肯%	評価	評価	肯%	評価	肯%	評価						
				評	評	評	評	評	評	評	評	評	評							
《教育目標》 郷土に思いをいたし、こころ豊かで、たくましく生き抜く実践力のある人材の育成	(1)開かれた学校づくり (2)ICTの有効活用	総務	13	積極的な情報発信による、開かれた学校づくりの推進	3.5	96	A	3.3	95	A	3.2	95	A	A	従来の出欠をもとめる事項、奨学金案内に加え、その他の保護者宛プリントもさくらメールを使用して配信し、連絡等の周知ができた。	さらにさくらメール配信を拡大し、保護者宛連絡をはじめ完全なペーパーレス化をめざす。	・大社町コミュニティセンターでのボランティア活動や同様の活動の様子について生徒同士で情報共有できたら良い。	A		
			3	ICTスタッフとの連携									3.2	95	A	A	新入生の入学時提出書類等の大幅なweb入力化など、かなり成果があったと考える。	引き続きICTの有効活用を広げていく。	・情報活用能力がますます重要になってくる。さらなる推進を期待する。	A
		生徒指導	9	ボランティア活動の推進								3.1	88	A	A	ボランティア活動や年末のアルバイトなど、地域での活動が円滑に行えるよう情報伝達等スムーズに運営することができた。	より積極的にボランティア活動等をするなど、地域での活動を促していきたい。	・生徒による評価が向上している点から、学校の取り組みが確実に生徒に届いていると感じる。少し時間を経てから気づくこともあり、子どもが社会に出た後に、学校で育まれた力の意味を改めて理解することもあるのではないかと。そのような教育の積み重ねの価値を感じる結果である。	A	
		体育	20	指導力								3.1	89	A	A	多くの情報発信機会を設定できた。特に「遊ぼう！キッズフェスタ」や「課題研究発表」などの独自事業は生徒にとってよい経験となっている。また、班での探究活動やキッズフェスタで自身の役割や特徴を見つけ、進路を考えていく上で欠かせないとなった。	より効果的な発信のために、伝わりやすい話し方や所作等を一層磨いていきたい。また、自らのスポーツ経験とキャリアが関連づけられるような支援を充実させたい。		A	
	(3)総合的な探究の時間の充実	寮務	10	寮生のライフスキルの向上								2.6	63	C	C	時間を守ることや掃除など、やるべきことができていない状況がある。全ての寮生に対して指導が行き届くための方策を模索しているところである。	寮生に対する共通理解・共通行動ができるよう、舎監の連携をとるための機会を作っていく。	・寮について、部活動単位の寮だと規律が守られていることが多いと聞くので、部活動単位での指導も良いと思う。	C	
			教育研究 1年	16	「理数探求基礎」の効果的な実施	3.4	91	A	3.0	89	A					新しいテキストの年間計画に従い、担当者・担任などと共通理解を図りながら実施できた。	年度初めの職員会議などで、本校の総合的な探究の時間の目標やおおまかな年間計画などを共有する時間を設けてさせていただきたい。	・寮についての内容も点数は低いながら上がってきており素晴らしいと感じた。	A	
			教育研究 2年	16	「総合的な探求の時間」「スポーツ総合演習」「研修旅行」の効果的な実施	3.2	86	A	3.0	78	B	3.1	86	A	A	普通科は、個人探究に替えた初年度だったが、計画にしたがい実施できた。体育科は例年通り実施した。成果発表会を新しい形式で実施した。研修旅行は行先を岡山方面に変更し、複数大学の見学も盛り込み実施した。	年間計画を見直し、発表内容については継続して指導していく。研修旅行は、さらに充実するよう学年会と連携を図っていく。		A	
			教育研究 3年	16	「総合的な探求の時間」の効果的な実施	3.4	92	A	3.1	86	A					「表現力育成」の集大成として例年通り実施できた。学年会とも連携し、各種講演会も実施できた。	表現する力(主に志望理由書や小論文)を向上させるために何が必要か、国語科や進路指導部とも連携して改善していきたい。		A	
	(1)主体的な学習態度の育成 (2)進路意識の高揚	教育研究	17	教員研修の充実								2.9	73	B	B	適宜、教員研修の案内ができた。全体の研修会については1、2学期に計画できず、3学期学年末試験中に計画することになってしまった。	先生方に参加しやすい時期、時間で設定していく。また、教員研修に係る業務内容を確認し、研修の内容を精査して実施すべきものは実施する。		B	
			3	主体的に学ぶ態度、表現する力・情報を活用する力・自己調整力の育成	3.4	92	A	3.1	88	A	2.8	74	B	A	理数探究や総合的な探究の時間を利用して、表現力や情報活用能力を身につけることができた。また単元テストを1日に集中しないよう配慮することで昨年よりは学習しやすい環境を作ることができた。	単元テストの実施については、まだ改善の余地がある。生徒がより計画的に学習にむかうことができるよう、来年度は2学期に実施期間を設定する予定である。	・進路意識について、生徒・教職員と保護者の評価に隔りがあるのが気になる。保護者に対し丁寧な情報提供と認識共有の取組が必要。	A		
3			主体的に学ぶ態度の育成	3.4	92	A	3.0	85	A	2.9	83	A	A	総合的な探究の時間を利用して情報活用能力を身につけることができた。また、単元テストを1日に集中しないよう配慮することで、昨年よりは学習しやすい環境を作ることができた。	単元テストの実施については、まだ改善の余地がある。生徒がより計画的に学習にむかうことができるよう、来年度は2学期に実施期間を設定する予定である。	・教員の取組として、特定の優れた成果だけに焦点を当てるのではなく、生徒一人ひとりの努力や過程を大切にしながら教育活動を行っていることが伝わった。日々着実に取り組む多くの生徒にも目を向けた指導がなされており、教員としての丁寧さを感じる。	A			
11			進路意識の高揚	3.4	95	A	3.1	89	A			3.2	95	A	A	概ね高評価であった。文理選択に併せた行事の配置や学年部の指導がよかったと考えている。模試、補習も機能した。	今年度同様に、文理選択等に併せた指導を継続する。また、模試を活用した学習を勧めたい。	・全体的に生徒評価が高い点が印象的。生徒と比較すると保護者評価が低いのが、学校からの働きかけだけでなく生徒と保護者が家庭でコミュニケーションをとることを大切にしたい。	B	
11			進路意識の高揚	3.5	95	A	2.9	78	B					保護者の評価がやや低かった。生徒に対しては、コース選択に向けた行事や学年部の指導がよかったと考えている。保護者に対して情報提供が少なかった。	2年次後半に、次年度につながるような学習や活動を取り入れさせたい。学年PTAの内容に進路情報を加えたい。		A			
12			進路志望実現への支援	3.5	94	A	3.1	86	A	3.1	92	A	A	A	個人指導を中心に支援できたと思うが、年内入試の負担が大きいかと、安易な進路決定も見られた。	さらなる外部人材の利用を進める。安易な進路選択とならないよう1学期の早い段階での選択状況を把握する。		A		
(1)授業改善 (2)ICTの活用 (3)適切な学習評価	体育	19	競技力								3.2	100	A	A	スポーツ概論等の専門科目とスポーツ総合演習が相互に関連しあい、効率的な技能の向上について理解を深めることができた。様々な機器を導入し、データ活用の方法を探ること、生徒の意欲も高まりやすく積極的な探究活動ができた。	学んだ知識や技能を競技力向上へつなげられるよう、引き続き各科目のつながりや関連性を重視して指導していきたい。データ活用のスキルについてはまだまだ課題が多いため、指導内容の精選を行っていく。		A		
		5	授業改善、適正な評価	3.4	96	A	3.1	91	A	2.9	77	B	A	評価の見直しを行うことができ、生徒の実態により近い評価ができるようになったと考える。	授業改善という面で、互見授業の実施等ができることよい。	・「総合的な探究の時間」の発表において、生徒同士の交流がより活性化する場の設定を工夫することが必要だと感じた。	A			
(1)挑戦への支援 (2)部活動の推進 (3)安心・安全な学校づくり	進路指導	13	3年間を見通したキャリア教育・進路指導	3.5	94	A	3.2	90	A	3.0	85	A	A	1、2年次の行事の配置やHR計画は良いと思う。志望系統に偏り、急な進路変更が散見された。	現在行っている社会人講話など外部人材の活用を継続して行う。	・普通科と体育科の生徒が、勉強やスポーツにおいて互いを認め合い、励まし合う機会がより多くあるといいと思う。	A			
		16	読書・図書館活動の充実	3.2	83	A	3.0	78	B	3.2	93	A	A	朝読書は、2学期に約1か月間という新しい形式で実施した。新刊案内やイベントを適宜実施しているが、保護者まで周知されにくい。	HPでの告知を検討する。	・幾つかの項目(読書・交通マナー・人権教育)について、生徒評価と保護者評価の乖離がある。保護者の意見や不満も分析し、教職員含めた三者の共通理解の醸成が必要。	A			
	(3)安心・安全な学校づくり	生徒指導	6	部活動の推進	3.6	96	A	3.2	85	A	3.1	95	A	A	部活動を通した人間関係づくりや、人格形成に活かすことができた。	活動時間等にメリハリをつけることで、学習との両立をさらに目指していく。	・探究授業において、テキストを活用した指導へと整理されたことにより、主体的に取り組みやすい環境が整えられたのではないかと感じた。生徒の中には対人関係への不安や経験の少なから、地域活動などに一歩踏み出すことに躊躇する場合もあるのではないかと、活動の方向性を示す教材があることで、生徒が挑戦への一歩を踏み出す後押しとなり地域との関わりを広げる契機にもなっているのではないかと感じた。	A		
			7	いじめをしない、させない体制づくり	3.4	90	A	3.0	86	A	3.0	86	A	A	「いじめ・学校生活に関するアンケート」の実施方法を検討し、より効果的な活用を努めた。	アンケートの実施や担任の面談等とおして、引き続きいじめの早期発見に努めていきたい。		A		
		生徒指導	8	交通マナーの向上	3.3	90	A	2.9	79	B	3.1	84	A	A	街頭交通指導や啓発を行ったが、自転車通学マナーへの苦情や交通事故はなくならなかった。	来年度からの法改正に伴い、交通違反に対する罰則が厳格化されるため、より一層交通ルールの遵守と事故防止の啓発を行ってほしい。		A		
		生徒指導 1年	22	人権教育の推進	3.3	91	A	3.1	91	A	2.8	74	B	A	それぞれの多様な価値観や考え方を尊重し、お互いに生活しやすい人間関係を構築できるよう細やかに面談を行いながら指導を行った。	相手の気持ちを考えた言動や、周囲に配慮できる意識を継続して指導をし育成を図っていく。	・災害対策の部分は昨年の地震で大きな課題になったと思う。地震も増えてきており、いざという時をしっかりと想定した対応の準備は重要だと感じる。	A		
		生徒指導 2年	24	人権教育の推進	3.3	90	A	2.8	79	B	2.8	75	B	A	研修旅行等を通じて、個々の人間関係だけでなく、一般社会に対する広い視野をもって物事を考えさせる機会を作り指導を行った。	日常の学級活動や教科指導とも関連づけて、社会への視野を広げる指導を行い、社会問題や多様な価値観に触れる機会の設定を行っていく。	・「部活動の推進」は、学校内外から評価されている大社高校の強みだと感じている。教職員の負担についてどのように感じておられるか、必要な改善点があるかどうかとわかると、より良い活動につながるかと感じた。	A		
		生徒指導 3年	26	人権教育の推進	3.4	95	A	3.1	87	A	2.9	86	A	A	生徒が豊かな自己実現を図るとともに、人権に関する様々な問題に関心を持ち、課題を解決しようとする姿勢の育成を図った。	人権課題を自分事としてとらえ、日常生活の中で具体的な行動につなげられるよう、継続的な指導を行う。		A		
		体育	21	組織力								3.0	82	A	A	新たな機器を導入し、データ収集等を行ったことで情報交換・意見共有の重要性が高まり「組織力」を実感することができた。また、専攻種目の活動やスポーツ総合演習の中で外部の方と関わりが増えたため、地域や社会の動きにも関心をもつことができた。	データ活用の方法について、生徒同士の相互支援等が効果的に機能するような働きかけを行う。また、地域社会に貢献する意識をより高めるために、さらなる工夫を検討していきたい。		A	
		保健	14	相談・対応できる体制の整備	3.4	93	A	3.1	88	A	3.3	100	A	A	全体として高い評価をいただいている。比較すると保護者評価が低いことが気になる。	ほけんだよりやSGだよりを通じて、学校の取り組みが保護者に伝わるよう工夫したい。		A		
		総務	2	危機管理								3.1	89	A	A	1月6日発生の地震を受け、従来の防災対応の見直しが必要となった。今年度は応急の処置をしたが次年度は大幅な防災計画改定が必要である。	地震対応の避難訓練を中心に、この数年で変化した新たな知見を取り入れた地震防災計画を策定する。		A	
		保健	15	清掃活動や安全点検への取り組み								3.2	98	A	A	教職員の皆さんには、お忙しい中丁寧に安全点検や掃除の指導をしていただいている。一部生徒で校舎(特にトイレ)の使い方がよくない状況がある。	トイレの使い方やゴミの処理について、気になる点は朝礼や終礼を通じて生徒に呼び掛けたい。また、また呼びかけのための掲示(ポスター等)を増やしたい。		A	
		学校満足度の向上	15	学校への満足度	3.6	95	A	3.5	96	A					A	多くの生徒が充実した学校生活を送っていると思われる。	生徒が興味関心のあることへ積極的にチャレンジできる機会の提供に努める。	・先生方の熱心な指導・取組の成果が生徒の姿を通して感じられる。	A	